

転貸融資は大幅減

第1・4半期の金融事業実績

利率変動が取扱に影響及ぼす

北保証サービス

北保証サービス(株)（小林健二社長）は、第一・四半期の金融事業取扱実績をまとめた。地域建設業経営強化融資制度（転貸融資）は、四ヶ月の累計で一千八百四十万円。前年度同期比八八・九％減で、一億円台を下回る大幅減となった。同社では「低利の融資が本年度からできなくなるため、前年度中に対象の融資を大方終えた結果」とみている。下請債権保全支援事業（保証ファクタリング）

は、枠保証が十四倍の約九千七百四十万円の増額取引となった。

転貸融資は第一・四半期の取扱実績が二件、一千八百四十万円と前年度同期比で八八・九％下回った。取扱は四月、五月となく、六月からの利用。原資となる基金の枯渇が、取扱の実績に影響する結果となった。

出来高五〇％以上を対象に、国の制度で安全に低利の資金調達が可能のため、事業開始以来、取扱の実績も年々伸びている。ただ、本年度から従来の低利の融資ができなくなるため、取扱いの見通しが立たない状況という。出来高で運用する事業の性格上、年度末に取扱が集中するため、「小口融資の手持ちは三〜四件あるが、第二・四半期の実績が動向の目安になるものと思う」とみている。

第一・四半期の発注者別実績は都道府県一件、五百三十万円、市町村一件、一千三百万円。

下請債権保全支援事業（保証ファクタリング）は五

十五件、三億一千二百五十万円で四五％減となった。

減少傾向は全国共通で、公共投資の増加により下請が現金化で元請を選別受注する動向も一つの要因としていられる。その他、国の制度延長（二年の時限立法）の通知の遅れや与信を超えた分に掛ける大口の物件の少なさが

減少の理由として挙げられている。

商品別にみると唯一、増額となったのが枠保証。債権残高のピークで保証枠を設定しその範囲内で売却金・手形を二〇〇％保証する人気商品で、十四倍増の約九千七百四十万円の取扱額となった。